

1- (1) 史跡岐阜城跡整備基本計画の公表及び発掘調査成果について

1. 「史跡岐阜城跡整備基本計画」の公表について※岐阜城跡（平成23年2月7日指定）

- ・整備基本計画策定事業を令和2～3年度にかけて実施。
- ・日本遺産の主要な構成文化財でもある国史跡岐阜城跡を**保存・活用**するための**具体的な計画**。
- ・パブリックコメントや文化庁の意見を踏まえ策定、**史跡岐阜城跡整備委員会**から承認。

(1) 計画の概要

①重点事業（特に優先的に取り組むべき事業）

- ・**山上部発掘調査の推進**
曲輪や虎口の構造、石材供給等の実態に迫る。
- ・**山上部の城郭景観復元**
眺望確保や、城下町等から眺めた際の景観の復元を行う。
- ・**山麓居館庭園整備**
岩盤から滝が流れ落ちる庭園跡の庭園空間整備を行う。



発掘作業の様子



山上部周辺中長期の整備イメージ図



山上部整備イメージ図



山麓部整備イメージ図

②今後の取り組みと事業スケジュール

- ・**113事業**を記載
- ・**10年単位**で事業期間を設定
→今後5年ごとにスケジュールの見直し、**10年ごとに計画改定**を行う。

(2) 計画の公表

- ・**12月23日**より、**市ホームページ**や各施設において、**パブリックコメント手続きの結果及び史跡岐阜城跡整備基本計画の公表**開始。

⇒岐阜城は、**金華山すべてが巨大な城**。その**保存と活用の両立**が大事。

新たなスタートとして、**歴史的価値を未来へ守り伝える**。
官民が連携して岐阜城跡の**魅力を全国に発信**、**本物志向の観光まちづくり**に取り組む。

2. 令和3年度 史跡岐阜城跡山上部発掘調査成果について

(1) 調査の概要

- ・ 天守東側（約 50 m²）と一ノ門（約 200 m²）の 2ヶ所で調査を実施。



(2) 天守東側の調査

- ・ 発掘調査で大正期の絵葉書に写っている**東面の石垣**が見つかり、石垣の位置が判明。また、遺物では石垣の上に造られた建物に使用されたと考えられる**瓦**が出土。

見つかった石垣

東面の石垣 1石を確認。これにより不明だった東面石垣の位置が判明し、南東隅の位置も推定出来るようになった。南西隅に残る石垣の基底部分から南東隅の推定地までの距離を測ると東西約 6 mの規模になる。



見つかった石垣



出土した瓦



絵図に描かれた石垣

(伊奈波神社蔵『稲葉城趾之図』)



天守東側に築かれていた石垣

(岐阜市歴史博物館蔵絵葉書『岐阜古城址天守閣』)

- ・ 江戸時代の絵図に石垣が描かれ、大正期の絵葉書の写真にその石垣が写っている。現在は、南西隅の部分のみ残る。
- ・ これまでの研究では**石垣の積み方の特徴**と、周辺で採集された**瓦とその文様**から**池田輝政の時期に石垣と建物が造られたと推定**。また、江戸時代の史料には池田輝政によって天守が築かれたとの伝承も存在。

池田輝政

輝政の祖父恒利は織田信秀に仕え、父恒興は信長と乳兄弟で信長に臣従した。1582年、本能寺の変後、恒興は豊臣秀吉に組み、賤ヶ岳合戦に勝利すると西美濃を与えられた。恒興は大垣城、息子の元助は岐阜城、輝政は池尻城に入るが、1584年、小牧・長久手合戦で恒興と元助が戦死すると輝政が池田家の跡継ぎとなり、1585年、岐阜城主となる。江戸時代の地誌『中嶋両以記文』には輝政が天守を築いたと書かれている。1590年、徳川家康の関東転封に伴い、三河国吉田城へ移ると、1600年の関ヶ原合戦の前哨戦で岐阜城を攻め落城させるなどの功績を上げ、播磨国姫路城主となった。

⇒池田輝政によって**信長が築いた天守周辺の改修**が行われ、新たに**石垣と瓦葺の建物**を築いた可能性が高くなった。

(3) 一ノ門の調査

- ・昨年度見つかった柱跡の対になる場所で**礎石と見られる石材**を確認。
- ・岩盤を掘り込んだ大型の穴を確認。底から水が湧いており、**井戸の可能性も**。

⇒一ノ門の構造を知る**新たな手掛かり**を得られた。
来年度以降さらに調査を行い、
門の変遷や門と井戸との関係を探る。



礎石と見られる石材



礎石と井戸の位置



岩盤を掘り込んだ穴

⇒**岐阜城は斎藤道三公から織田信長公、池田輝政公へと受け継がれた城**であることが解明。
今後の重点事業として**岐阜城の本当の姿**を明らかにする。

(4) 報告会及び現地公開について

- ・**令和4年1月15日(土) 10:00~11:30**にオンライン形式による調査成果報告会を
山県市大桑城と共同で開催。

⇒12月23日(木)からモニターツアーの「**戦国ドラまちEXPO**」のホームページから
申込み開始。(料金無料)

- ・発掘現場については足場が悪く危険なため公開は行わない。

⇒**令和4年1月11日(火)**から岐阜公園内の日本遺産・信長居館発掘調査案内所や
岐阜城天守閣などで調査成果の資料を配布。

有識者の評価 なかいひとし 中井均氏 (滋賀県立大学名誉教授 日本城郭史)

今回の発掘では池田輝政による天守周辺の改修が明らかとなった。この改修の意味は大きい。

池田輝政は豊臣秀吉が美濃を治めるため10万石で岐阜城主に据えた重要な大名である。輝政はおそらく秀吉の意志を受けて、織田信長によって築かれた天守という象徴的な場所に新しい石垣や建物を追加した。このことで岐阜城を信長の城から秀吉家臣の城へと変化させ、時代が変わったことを目に見える形で人々に知らせたのであろう。

これまでの斎藤道三の岐阜城、織田信長の岐阜城に加え、池田輝政すなわち豊臣秀吉の岐阜城という新たな姿が明らかになったといえる。